

理論試験速報

理論問題部会長

鈴木 亨 先生

(筑波大学附属高等学校)

にインタビュー

今回の出題の“テーマ”を教えてください。

真理の探求！

物理と数学の能力を第1チャレンジよりさらに測るために、第1チャレンジクリアの時点で生徒の中で知識の上では個々で大きな差があることを配慮しました。

そのため、生徒が“知らない”ような内容を題材にしています。

ある程度、ハンデ(知識、能力の差)が無くなり、受験勉強をしている生徒が有利でない出題にしています。

誰も見たことがない問題になりますが、“考えることをやめなければ”解けるはずです。

それを生徒のみなさんに期待しました。

“問が終わった後に記述が続くのは出題者のメッセージです”。問題が解けただけでなく、さらに深い物理がある。もっと勉強したい。大学にいきたいと思ってほしいです。

鈴木先生が、最も“カンタン”だと思う問題、あるいは“これは解けてほしい”と思う問題と、その理由を教えてください。

すべての大問の問1は、最初の問題で答えられる材料はそろっています。

読解力があれば、後の問題もがんばって答えることができます。

逆に、最も“ムズカシイ”と思う問題、あるいは“これが解けたらスゴい！”と思う問題と、その理由を教えてください。

第3問 “共動距離”と“固有距離”ですね。

生徒たちにとって、まったく新しい概念にどうチャレンジしてくれるか期待しています。

ひるまずに、柔軟に対応できるか大事です。

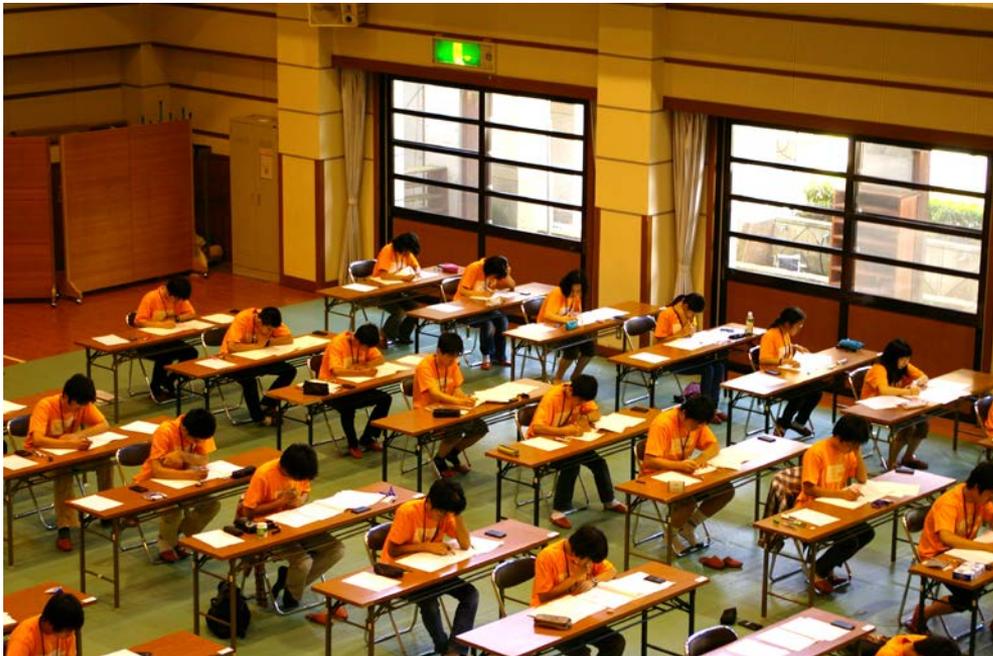
説明は問題内でしてあるので、“ひるまず”に考えれば解けるはずで
す。

この問題が解ける子はチャレンジ精神があると思います。

ちなみに、鈴木先生にとって、今回の出題問題の中で“お気に入り”の問題などがあれば、ぜひ教えてください。

第3問は全体的にお気に入りです。

第1問Bは、最初の方は計算が複雑ですが、後の問題で“物理”がわかっていると単純に答えられる問題もあります。これに気がついてほしいですね。



緊張感にあふれた試験会場。

一生懸命、真剣に取り組んでいる姿はとってもかっこいいです！

良い結果を期待しています。

見ている私も緊張しました！

正直なところ、私たち大学生にとっても難しい難問ぞろいでした。

生徒たちは、大学で勉強するような物理、数学を使いこなさなければならなかったと思いますが、今後、生徒たちにどのような自主学習を期待しておられますか？

うーん・・・そうですね。

かなり、個人的な見解ですが、

物理に限らず、もっと教科以外のこと(学校で教わること以外のこと)に興味をもったり、勉強したりしてほしいです。

受験に使う使わないで、学習内容(自分が勉強すること)を決めないでほしいです。

一番、頭が柔軟なときを有効に使ってほしいです。

いろんな本を読んでほしいですし、今の情報社会を有効的に使ってほしいです。

例えば、ツイッターをやっている暇があったら本を読んだ方がいいです。大海原を前にしてビニールプールで遊んでいるようなこと。

また、手は大腦につながっているいると思います。

高校には眠っている実験装置がたくさんあります。それを使わせてほしいと先生にいつてみて、物理を体感するのも勉強になると思います。

理論問題でもっとも、生徒のみなさんに求めたものはなんですか？

“知的好奇心”の一言。

5時間、戦い抜いたチャレンジャー（生徒たち）にメッセージをお願いします。

「5時間という時間では足りなかったかもしれませんが、君たちにとって、勉強する時間は、
“これからたくさんあります。”」

鈴木先生、ありがとうございました。

チャレンジャーのみなさん、おつかれさまでした！！